

2017
年度

新島襄生誕175年記念

生徒・学生



懸賞論文募集

応募資格

- ① 同志社の諸学校（中学校、高等学校、大学、女子大学、大学院）に在籍する生徒・学生
- ② キリスト教学校教育同盟に加盟する学園に在籍する生徒・学生
- ③ 新島襄または同志社に関心を持つ中学校、高等学校、大学、大学院の生徒・学生

論文のテーマ

「新島襄または同志社の歴史に関するもの」

字数

		日本語の場合	英語の場合
中学校の部	手書き	本文 2,500字程度 A4判原稿用紙 (縦又は横書)	
	パソコン	本文 2,500字程度	本文 1,500語程度
高等学校の部	パソコン	本文 4,000字程度	本文 3,000語程度
大学・大学院の部	パソコン	本文 12,000字程度	本文 7,500語程度
パソコン原稿の書式		A4判横書 1ページ 40字×30行	A4判横書 1ページ 30行

締切

2017年11月6日(月)【必着】

送り先

〒602-8580 京都市上京区今出川通鳥丸東入

同志社大学同志社社史資料センター

表彰

応募作品は審査委員会において審査のうえ、最優秀賞、優秀賞、佳作を選び、第175回新島襄生誕記念会（2018年2月13日(火)同志社礼拝堂：予定）において賞状・賞品を授与する。なお、入賞作品は『2017年度新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集2018』に収録し、刊行する。また、入選者については『入選作品集』に学校名、氏名を記載する。

注意

- ① 応募にあたっては募集チラシ裏面の「新島襄生誕記念懸賞論文 作成要領」にしたがうこと。
(<http://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)
- ② 断りなしに他者の文章を使用してはいけない。使用した場合、注をつけるか、原稿末尾に、引用文献および参照した文献のリストをつけること。詳しくは同志社社史資料センターホームページ「懸賞論文」(<http://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)あるいは『2016年度新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集2017』（学校法人同志社各校図書館に所蔵）掲載の「懸賞論文の書き方について」を参照すること。
- ③ 『新島襄全集』『現代語で読む新島襄』『新島襄の手紙』『新島襄 教育宗教論集』『新島襄自伝』など、新島自身の文章を資料として利用することが望ましい。
- ④ 応募原稿は原則として返却しない。

主催 ▶ 学校法人 同志社

問合せ先 ▶ 同志社社史資料センター事務室

(TEL : 075-251-3042 FAX : 075-251-3055 E-mail : ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp)

1 文字数・ワード数について

本文の文字数・ワード数は指定数の上下10%前後を目安とする。

2 作成方法

(1) 共通事項

- ① A 4判の用紙を使用する（原稿用紙の場合、特に気をつけること、おおよそ29.7×21cm）。
- ② ページ番号をつけること（タイトル、氏名等を記載したページを第1ページとする）。
- ③ 表紙はつけない。
- ④ 1ページ目の冒頭に「タイトル」（必要な場合は2行目を使ったり「サブタイトル」をつけてもよい）、改行して「所属学校・学年」、さらに改行して「氏名」を書き、氏名には「ふりがな」をつける。
- ⑤ 本文の文末に本文の字数（日本語）かワード数（英語）を記載する。
パソコン等に表示された字数・ワード数でよい。原稿用紙の場合は、行単位で計算する。
- ⑥ 高校生以上はパソコンで作成すること（後日提出を求める場合があるので、作成した応募原稿はデジタルデータで保存すること）。

「(1) 共通事項」とあわせて以下の事項にしたがうこと。

(2) 原稿用紙使用の場合（中学生）

- ① 400字詰A 4判原稿用紙（20字×20行）を使用すること。
- ② 縦書き横書きは自由。
- ③ 鉛筆のBまたはHBを使用し、大きくしっかりと濃い目の字を書くこと。

(3) パソコンで作成の場合

- ① 原則として横書き、1頁40字×30行とすること。
- ② 特に必要ある場合は縦書き（用紙横）1頁30字×40行としてもよい。

3 論文の書き方について

(1) 」の前には、句点（。）はつけない。

例：文書の途中の場合 …と言った」と書いている。
文書の最後の場合 …と言った」。

(2) 年号は西暦で表記する。なお、必要な場合は元号を併記する。

例：1875（明治8）年

4 注のつけ方について

論文の場合、注のつけ方はたいへん大切で、その論文の価値にも影響する。

応募にあたっては、同志社社史資料センターホームページ／「懸賞論文」の「懸賞論文の書き方について」を必ず読んで、例にならうこと。 <http://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>
（また、学校法人同志社諸学校の図書館に所蔵している『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』中の「懸賞論文の書き方について」に掲載しているので、参照すること。）